

試験研究センターの執務室リニューアルへの取組み (構造試験室・耐震耐久性調査室)

1. リニューアルについて

吹田市にあります本部・試験研究センターのうち、構造試験室・耐震耐久性調査室では、約160m²の執務室に、全20名の職員が在席して執務しています。両室の執務室は、1967年に竣工した本部で最も古い建物の中にあり、部分的な改修はしているものの、竣工より50年以上にわたり、大幅なリニューアルをすることなく使用してきました。

このたび、執務環境の改善、デジタル化の推進、交流の促進を目的として、執務室のリニューアルを行いました。リニューアルは、2022年11月～2023年3月にかけて、両室の若手・中堅職員を中心にリニューアル案を策定し、その後、室内の整理期間を経て、2023年8月に実行・完了しました(図-1)。

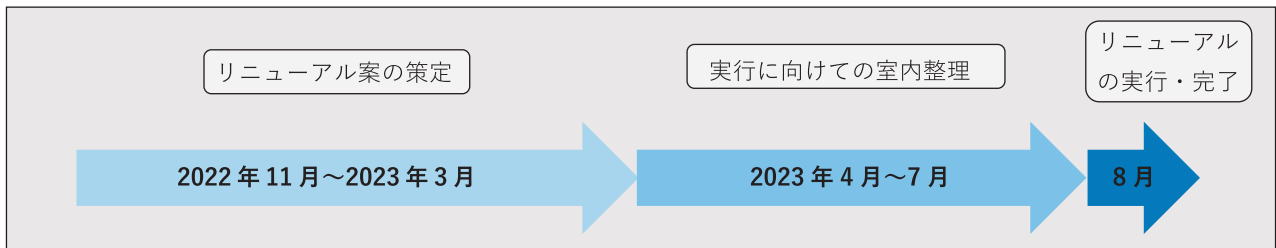


図-1 リニューアルの全体工程

2. 計画コンセプト

①執務環境の改善

従前の執務室(図-2)と比べて、リニューアル後の執務室(図-3～図-6)では、物の高さを抑えるように計画したことで、出入口から窓まで全体が見渡せるようになりました。また、オフィス緑化を意図し、フェイクグリーンを設置したことも合わせて、従前より明るい開放的な執務空間となりました。

②デジタル化(ペーパーレス化)の推進

リニューアル後の執務室では、書類の整理や廃棄等を行い、従前の執務室と比べて、共有書棚を1/3程度の量に、個人書棚を2/3程度の量に削減しました。また、共有スペースの打合せテーブルにはモニターを設置して、電子会議やPCの画面を共有しながらの打合せが可能な環境を整備し、ペーパーレス化が推進されるように計画しました。

③交流の促進

リニューアル後の執務室では、物の高さを抑えた個人席を、両室で共通して一体的に配置するように、執務スペースを計画しました。今後の両室の人員構成の変化に対応しやすくなるとともに、各職員の在席を確認しやすくなり、両室を跨いでコミュニケーションが活性化されることが期待されます。

また、従前の執務室の共有スペースは、打合せテーブルが1つ設置されているだけででした。リニューアル後の執務室では、書棚を削減したスペースを転換して共有スペースを拡大しました。他の利用者に気を使うことなく、気軽に打合せや個人席以外で執務することができる共有スペースが整備されました。

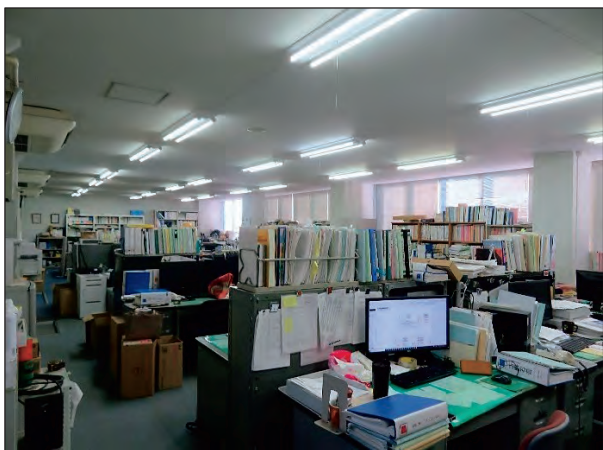


図-2 リニューアル前の執務室全景

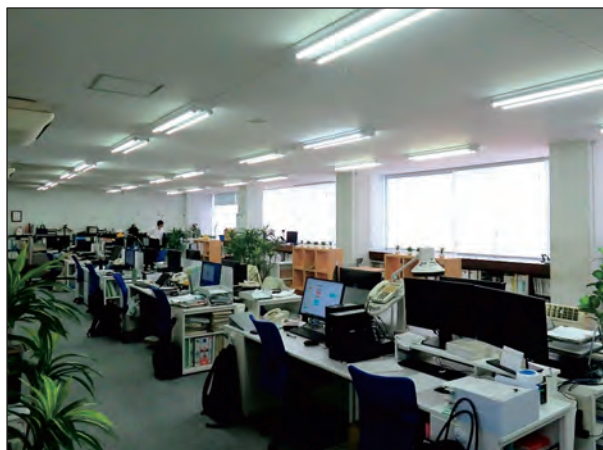
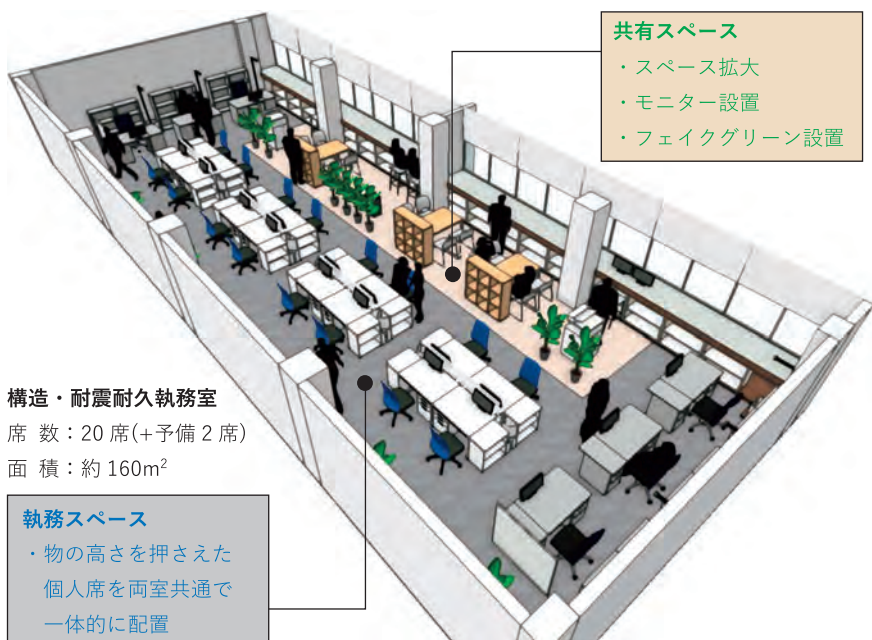


図-3 リニューアル後の執務室全景



構造・耐震耐久執務室
席数：20席(+予備2席)
面積：約160m²

執務スペース
・物の高さを押さえた個人席を両室共通で一體的に配置

共有スペース
・スペース拡大
・モニター設置
・フェイクグリーン設置



図-4 リニューアル後の執務室パース

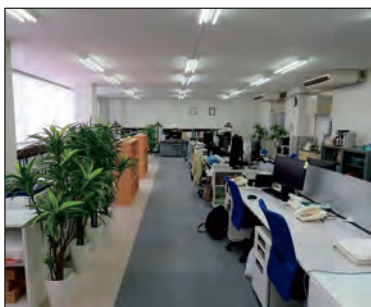


図-5 リニューアル後の執務スペース



図-6 リニューアル後の共有スペース

(構造試験室 河合 大)